

生活

交流ひろばと身近な話題



熊本西間税会女性部会

親会の熊本西間税会(高柳隆一会長)の女性部会として昨年1月設立。女性部の会長は菊田節子キクタシューズ役員。写真はゲストに高柳会長、前田康成熊本西税務署統括官らを迎えた今年の例会時に撮影。



東都大学リーグ大同窓会拡大幹事会

東都大学リーグに加盟する大学の同窓生で組織する会。写真は各大学の支部長、会長、幹事長、事務局長らのメンバー。年に一度、合同の大同窓会を、秋にはゴルフコンペを開催している。写真は今年開催の拡大幹事会で。

ぐるーぶ 訪問



▲インターネット環境などを活用した会議風景



▶備え付けのコピーメーカー(写真上)やコピー機(同下)。オプションとして住所貸しや郵便物の保管・転送、電話代などのオフィス機能サービスもある

イベント企画などのディカーナ(熊本市東区東野1丁目)は、このほど、同社の空きスペースに、県内初のフリーアドレス型シェアオフィス「キャンバスラボ」を開設、コワーキングスペース事業を開始した。他の利用者とのスペースを共有し、交流しながら仕事をすることを借りるより安く、開放的な空間で仕事ができるのが特徴。また、単に仲間や電源、インターネットアクセスの環境が確保できるとだけでなく、各個人が独立して働きながら、相互にアイデアや情報を交換し、オフィス環境を共有することで相乗効果が生まれるコミュニティ空間としても注目を集めている。料金は会員制で、入会金5000円、利用料金は月額5000円から。

熊本初のコワーキングスペース

ディカーナ



▲タスマニアビーフのステーキ



▲前菜の盛合せ



▶デザートとコーヒーも付いている

ステーキ食べ放題のランチメニューを開始

熊本全日空ホテルニュースカイ

熊本全日空ホテルニュースカイ(熊本市中央区東阿弥陀寺町)は、同ホテル内のレストラン「サンシエロ」でステーキ食べ放題のランチメニューを開始した。同メニューの価格は2000円で、ブッフェ、前菜盛合せ、メインディッシュ、デザート、コーヒー。ステーキ肉には「タスマニアビーフ」を使用、柔らかい肉質が特徴だという。また、同レストランでは追加料金無しで、ランチセットのパスター大盛り(通常の1.5倍)のサービスも開始。価格は1500円で、ブッフェ、パスタ、デザート、コーヒー。ランチの営業時間は、午前11時半から午後2時半まで(オーダーストップは同2時)。

コミュニケーション講座

魅力ある人間力アップに向けて (第20回)

人はひとりでは生きて行けません。さまざまな形で支えあつて生きています。それぞれが持つエネルギーを見つけ、見守り、引き出す。コミュニケーションは、人と人をつなぐ原点ともいえます。家庭、職場、近所付き合い、友人との付き合い、その全てがコミュニケーションであり、人生を楽しむこと、エネルギーアップにもつながります。ここではさまざまなコミュニケーションのとり方についてアドバイスします。

【今月のテーマ】

「拝啓、十五の君へ」

コミュニケーションアドバイザー 津川 育子

皆さんは、15歳の時、自分がどんな悩みを持っていたのか、覚えていますか？

先日、私は一曲の素晴らしい曲と出会いました。アンジェラ・アキさんの『手紙、拝啓十五の君へ』という歌です。この曲は、まず、15歳の自分が、未来の自分に手紙を書くという形で始まります。未来の自分に宛てて、自らが抱える悩みを打ち明けるのです。

『今、負けそう、泣きそう、消えてしまいたい。そんな僕は、誰の言葉も信じ歩けばいいの？』一つしかないこの胸が、何度もバラバラに割れて、苦しい中で今を生きている。

15歳というのは、高校受験を迎える年ですね。たった15年しか生きていけないのに、未来を一つ、選択しなければならぬのです。子ども達は、心の奥底に、誰にも言えない悩みを抱えているのかもしれない。私自身、15歳の時のことを振り返ると、今では「どうしてあんな些細なことでも悩んでいたんだろう」と思うことも、胸が張り裂けそうでも一人涙を流したこともありました。

親として、子ども達が一生懸命悩んで、小さな胸をいっぱいにして涙をこらえているかもしれない。必死に考えて生きているということ、とを、まず胸に置くことが大切なのだと思います。

15歳の頃の自分からの手紙を読んで、アンジェラ・アキさんは、そんな幼い日の自分にこんな返事を書きました。

『今、負けないで、泣かないで、消えてしまいたい。そんな時は、自分の声を感じ歩けばいいの。大人の僕も傷付いて、眠れない夜はあるけど、苦しくて甘い今を生きている。』

親は、子どもが出来るだけ歩きやすい場所を歩いていけるように、子ども達の前に続く道に転がる石やガラスや棘を、どうにかして取り去ってあげたいと思ってしまう。けれど、この曲にもある通り、大人になつたって、苦しいことはあります。悲しいことも、辛いことも、たくさん転がっています。

私達が、子ども達のために歩いていく道を舗装して、危ないモノから遠ざけて、自分達の思うように操作して育てていったとして、それは、いつまで続くのでしょうか。子ども達は、いずれ大人になります。大人になつて、自分の足で歩いていかなければならなくなる。大人になつて、躓いてしまった時、立ち上がるためには、きつと「悩んだ経験」が必要なのだと思います。胸が張り裂けそうなのに悩んで、辛くて仕方なくて、それでも自分の声を信じて歩いたという経験は、大人になつた時に、必ず役に立つはずですよ。

